

浄土

monthly
JODO
1996-9



1996 9 September

法然上人鑽仰会・発行



咲いたら、幸せ。

楽しい、嬉しい。

ちょっと切ない、なつかしい。

いろんな話をしたり、聞いたり。

そんな何気ないことが、人と人との

固い絆の第一歩。

それぞれの人の、それぞれのお話に

花を咲かせるお手伝い。

安い市外電話の、0088です。

日本を楽しくする電話

0088

お問い合わせ・お申し込みは、日本テレコムお客様センターまでお気軽に。



0088-82 (無料)

または 0120-0088-82

●受付時間 9:00～23:00 (年中無休)

名刹を訪ねる

連載

甲斐善光寺

撮影・小堀祐二

金堂（本堂）天井の鳴き竜、見事な音がする



信玄建立の七堂伽藍が焼失した約四十年後の寛永八年（一七九六）に建立された金堂



金堂とともに重要文化財の山門



本尊前で念仏を称える。参拝客は後を断たない



本尊の阿弥陀三尊像

開基となる武田信玄像。
甲冑出陣像と称する



信玄が川中島の合戦で用いた太鼓



甲斐
善光寺



信玄が龍の朱印をもって認可している朱印状

甲斐 善光寺



江戸の芝からお参りに来た牛の伝説があり、その牛の角と五輪塔の霊牛碑が残る。写真がその角



金堂裏にある阿闍梨の井戸。その由来を説明する吉原住職



信濃善光寺から本尊とともに移された源頼朝の座像

山梨県指定文化財の梵鐘。表面のすり傷が甚だしく「地引鐘」、「引きずりの鐘」とも呼ばれる

浄土



1996/9月号 目次

カラーグラビア 連載<名刹を訪ねて>.....写真=小堀祐二	3
聖光上人を偲ぶ.....藤堂俊章	8
法然上人の対話の説法に学ぶ.....奈倉道隆	16
御法語に聴く	22
表紙は語る 野草・花ごよみ.....石井敏之	27
名刹を訪ねる 甲斐善光寺	28
コラム	37
外国で生活して.....柴村知海	38
コラム	45
童話 くも吉の旅路.....斎藤耕善	46
続・午後の日差しの中で	52
Jフォーラム	59
事務局便り	68
編集後記	70

表紙題字=浄土門主 中村康隆猥下

表紙撮影=石井敏之

アートディレクション=近藤十四郎

巻頭特別寄稿

聖光上人を偲ぶ

大本山善導寺法主

藤堂俊章

大本山善導寺におきましては、本年十月十六日より五日間、開基八百年慶讃大法要と平成大修築落慶大法要が奉修されることになりました。

大本山善導寺は浄土宗第二祖聖光上人が開山でありまして、開基以来八百年の歳月を重ねてまいり現在に至っております。更に当大本山は本堂・三門・庫裡等の老朽が甚しうございましたが、先年これらが国の重要文化財に指定されましたのを機に、数年前よりその大修築に着手し、昨春秋その完成を見ることが出来るようになりました。この二つの慶事を祝つての大法要に既に全国各地より団体参拝の御申込みがあり、当大本山のため、浄土一宗のため誠に極めてたきことと存じ感激に堪えず、衷心から感謝いたしている次第であります。

この機に当り開山聖光上人を偲び奉ることは意義あることと存じ、聖光上人の御行跡を慕いたいとペンを執りました。

聖光上人は父上と母上とが昔菅原道真公が配所の月を眺めた太宰府の観世音寺に七日間参籠し、よい子が授かるようにと祈った靈夢を感じて身籠まれ、今の北九州市八幡西区香月町で、香月家の二男として誕生されました。ここにも法然上人の御両親が岩間の観音に日参されて法然上人を懐妊されたのを思い浮べますとき、胎内教育の重要さを痛感いたします。

聖光上人御誕生のその日のうちに慈母は亡くなりましたので、聖光上人は安産祈願の誓いを立てられ、当本山では八百年の長きにわたって安産祈願が行われ、現在でも九州の

遠近各地からの御参詣が絶えません。

健康

御誕生の地に比較的近い白岩寺に十四歳で入山して唯心法師について十七歳まで天台の学業をなさり、十七歳のとき香月家の菩提寺である明星寺の下寺である大日寺に入寺して妙法法師に、後、常寂法師に師事されて天台の勉強をなさいます。

この明星寺は今の飯塚市の西南約三〇キロにあり、当時は四十二の僧坊があったといわれ、この明星寺から山嶽佛教の根本道場である英彦山まで、十七歳から二十二歳まで三年間に一千日の日参に勵まれました。この距離は六十キロはありますので、いかに健康の持ち主であり、意志の強固がうなずかれます。

当本山の三祖堂に安坐されている国の重要文化財である聖光上人の御木像を拝しますと、その眼光、部厚い面立ち、肩の肉の盛り上りは此の体格あればこそ、あの勇猛精進が可能になったのではないでしょう。

未明に出発し夜には必ず帰る、闇を縫い大地を蹴つての時刻を違えない怪僧の姿を見て化け物という噂が立ち、その地方第一の勇者が弓に箭をつかえて放ちましたが、法衣の袖を射ただけであつたといわれています。

研究

筑紫の田舎では学問も修行も思うにまかせませんので、師の常寂法師の指示に従って比

叡山に登られたのが、木曾冠者義仲が京都に乱入した寿永二年（一一八三）二十二歳の春でありました。

最初は東塔南谷の観叡法橋に就き、ついで宝地房証真法印に師事して天台の奥義を究められますが、この証真本院は『源平盛衰記』に「浅広の証真、深広の法然」と、法然上人と並び称せられる程の、一切経を十六遍も読まれた当時比叡山における学徳共に秀れた第一人者でありました。

在山八ヶ年、建久元年（一一九〇）二十九歳故郷に帰られ、翌年油山の学頭に補せられました。油山といいますが、今の博多駅から西南方六キロにありまして、当時三百六十坊あったといわれ、その寺の燈明の麻油を作った山で、肥筑平野を一望できる標高五九二メートルの現在は風光明媚な公園となっています。この油山の子弟教育の校長に就任されたのでありますから、いかに学問が広く深く研究心旺盛な学者であつたかということがうかがわれます。「学徒席を諍い、衆人林を成す」と伝記が書かれてありますから、わずか三十歳の学僧の英才がしのばれます。

この油山には元浄土門主山下現有大僧正が「鎮西上人靈蹟」と大書された自然石の石碑が建てられ、その裏面には望月信亨博士撰の碑文が刻されてあります。

信仰

三十二歳の建久四年（一一九三）の明星寺において異母弟の三明房と法談中に三明房が急死されましたので、聖光上人はいたく無常を感じられ、世間の名誉地位を捨て往生極楽

を願う念佛の行者とされます。天台の念佛であります。

明星寺五重の塔の再建の勧進を懇願されました。学徳兼備の高僧でないと浄財は集まりません。建久八年（一一九七）三十六歳五重の塔の御本尊注文のため京都にのぼられます。今の寺町四条下ルの聖光寺が当時有名な佛師康慶の邸であります。その康慶に御本尊を注文なさいます。

その康慶の邸に滞在中、東山の庵で念佛を弘めていらつしやる法然上人を訪ねてゆかれます。時に法然上人六十五歳、聖光上人三十六歳。片や宗教家として徳の盛り、片や男盛りのお二人が初めての出会いをなさいます。法然上人が佛教の中の念佛の教えを「一に天台摩訶止観に明かす念佛、二に恵心僧都の往生要集に勵める念佛、三に善導大師の觀經疏に立てる念佛」と、本願念佛の最もすぐれていることをお説きになること未の刻午後二時より子の刻（午前〇時）に至る十時間の説法に、聖光上人は心服されます。今までの学問と修行を捨て法然上人のお弟子とされます。

三ヶ月勸化を蒙り、出来上った御本尊のお許をして明星寺に帰り落慶法要をつとめ、再び京都に上洛されたのが正治元年（一一九九）二月二十八歳でありました。そして法然上人に奉仕されること前後八年であります。

浄土宗の教義が組織的に書かれ、当時の佛教に対する法然上人の爆弾的浄土宗独立宣言書の『選擇本願念佛集』を「汝は法器なり、伝持にたえたり、早くこの書を写して末代に弘むべし」と、法然上人から授けられた聖光上人は大変感激なさいます。浄土一宗の奥義を一つの器の水を一つの器に汚すが如く、法然上人から相伝された聖光上人が元久元年（一

二〇四 八月四十三歳鎮西に帰られ、今の大本山善導寺を開創されました。

浄土宗徒でありますと『一枚起請文』をご存知でない方はいらっしやいませんか、その『一枚起請文』は法然上人がお浄土にお還りの三日前、建暦二年（一二二二）正月二十三日、常隨の勢観房源智上人の懇願によつて授けられたのでありますが、それより九年も早く『一枚起請文』とは言葉文言に少異はありましたが、意味内容は少しも相異のないご法語が元久元年（一二〇四）法然上人から聖光上人に付与されているのであります。

忍激上人のご法語を『鎮西相承』といい、『一枚起請文』を『源智相承』と申されています。『選擇集』の相伝といい、この『鎮西相承』といい、いかに聖光上人が法門伝持の器であり、宗教的天賦豊かな信仰の持ち主であつたかが知られると思ふのであります。

聖光上人は大變別時を唱道されました。現在久留米市御井町の厨寺聖光院安養寺は建久三年（一一九二）時の地頭厨氏が開山といわれ、聖光上人はこの厨寺で寛喜元年（一二二九）より三年間の一千日の別時念佛を勤修されています。時に六十八歳、いろんな奇瑞が伝記に記されています。この三門には『鎮西国師千日別時念佛感應道場』の石碑があります。

また大本山善導寺の三門の南、納骨堂の東に楠の太木がありますが、その側に千日別時の記念碑があります。正面に『縦通三界、横該施与十方萬靈』と記されており、当時の大庄屋、庄屋業の協力で行われたもので、参加者の姓名が刻されています。

安禎二年（一二二八）といえますと、聖光上人六十七歳、法然上人の十七回忌に正当します。その頃法然上人の教に対し異義邪説が出てまいり正流が混濁しかけていましたので、

聖光上人は師法然上人報恩のため、末代念佛興隆のため、末代の疑いを決せんがため、末代の証に備えんがため、今の熊本市の中央を流れている白川河の畔、往生院で衆徒二十余人と共に十月二十五日より四十八日間の別時念佛をつとめ、最後の三日間で法然上人から承った口訣の要旨を述べ、最後にご自分の手印を押されて証をなさったのが『末代念佛授手印』で、これあればこそ法然上人のみ教が一条乱れず吉水の流れ清く八百年の今日まで伝っている大切な書物で、五重伝巻の中の二重の巻物となっているものであります。

嘉禎三年（一二三七）十月から四大不調を訴えておられた聖光上人は翌年の正月から命終の時を感じられました、高声念佛、授戒、説法、来現の阿弥陀佛、地藏菩薩を拝まれ、異香を感じられたり、種々の瑞相奇瑞が現れました。翌二月二十九日七條の袈裟を付け、一字三礼の自筆の阿弥陀経を合掌の親指にはさんで念佛すること一時ばかり、最後に光明徧照まで口にされてお浄土に還られました。時に七十七歳。

新・真・深の人間像

この健康と研究と信仰の三つを兼ね備えることが新しい二十一世紀の真実にして深みのある人間像ではないでしょうか。左図を示して老納の拙稿を終わりたいと存じます。

天性——健康——勤労——榮養

理性——研究——科学——教養

靈性——信仰——宗教——靈長

ご法語

經論の中に六念八念九念を明かすと言えども我が如くはただ念死念佛の二念にあり。

(『浄土大意抄』)

八万の法門は死の一字を説く。然らばすなわち、死を忘れざれば八万の法門を、自然にこころえたるものにあるなり。

(『一言芳談』)

安心起行の要は、念死念佛にありとて、つねのことわざには、出る息、入る息をまたず、入る息、出る息をまたず、助けたまえ阿弥陀ほとけ、南無阿弥陀仏とぞ申される。

(『法然上人行状絵図第四十六』)

法然上人の

対話の説法に学ぶ

奈倉道隆

相手の意思を尊重する対話

法然上人から、私が最も学びたいと思うことが三つあります。

その第一は、上人が問答や対話を好んで用いられ、話し合いによる教化をされたことです。

第二には、相手の意志を尊重し、その人自身が自分の道を選んで歩むよう導かれたことです。

第三には、その時代の人びとの現実の生活をふまえて、実践できる形で仏法を示されたことです。

たとえば、法然上人のお言葉は、「一百四十五箇条問答」、「十二箇条問答」、「要義問答」、「諸問答」といった問答形式でまとめられたものや、文の中で「問ていはく……答ていはく……」という形で記述されているところが多く見られます。

その内容は抽象的な論議ではなく、身近で

具体的なことがとりあげられています。釈尊も、対話の説法をされましたが、具体的な悩みや迷いを相手に語ってもらい、対話をくりかえしながら相手の人自身が自分の生き方が見い出せるよう導いていきました。現代の言葉でいえばカウンセリングに当たると思えます。法然上人の説法にもそれが感じられ、私は学ばせて頂いています。

法然上人の「二百四十五箇条問答」の中の飲酒の是非を問う問答には、その趣きがよく表れています。ある人が上人に向かって「酒を飲んではいけませんか」と尋ねました。上人は、「まことには飲むべくもなければ、この世のならひ」とお答えになられたと記されています。

上人のお答えは、その人に酒を飲むことを禁止するのでも許すのでもなく、自分で考えるようにしむけられたお言葉だと理解されます。というのは「まこと（仏法）では飲酒すべきでない」とまず説かれ、酒で苦悩から逃

げようとしたり、うさばらししたりするのは
仏法に従う生き方ではない、と真理を示され
たうえで、「(酒を飲むのは)この世のならひ
(習慣)」ということを書いておられるからで
す。当時も、僧侶でありながら一般の人達と
同じく酒を飲む人もいたに違いありません。
そのことを批判することも容認することもな
さらず、ただ現実になんという人達がいるこ
を示されたお言葉です。

このお言葉を聞いて、人はそれぞれに考
えるでしょう。「やはり酒は飲むべきではない」
とくいとめて飲まない人、「世間なみに飲むの
はかまわないだろう」とくいとめて飲みだす
人がいるかもしれません。しかし上人のお言
葉は決して好きなようにしてよいと放任され
たものではありません。「この二つの態度をめぐ
って、自分でよく考え、選びなさい」という
お気持ちであつたと推察します。

私の思いですが、もしこのとき、「仏の道を
歩む者は飲むな」とおっしゃつたとしても、

飲まないでいられない人は隠れて飲むでしょ
う。表と裏ができて、決して望ましいとはい
えませんが、さりとて、「少量ならかまわない」
と許されたとしたら、酒に逃避しないで真実
の道をめざそうとする人をまどわすことにな
りかねません。法然上人はそのことを見越し
て、各自が自分の心で考えることをおすす
めになつたのではないでしうか。

人それぞれに思いがあります。上人から禁
止されていないけれども、仏弟子として飲む
べきではないと教えられ、みずから飲むまい
と決意した人もあるでしょう。あるいは、世
俗の生き方に引寄せられ、この世のならいだ
といつて飲むようになる人もあるでしょう。
しかし仏の道を歩もうとする限り、いつかは
「これでよいか、これが仏弟子の生き方か」
と反省するときもあるでしょう。上人は各自
が自分自身の生き方を模索する中で、真の行
動が選べるようになることを、望んでおられ
たのではないでしうか。

現代も、仏法を求める人は少なくありません。しかし、教えを教えとして受けとめ、自分の生き方に反映できない人が多いように思っています。知的な理解だけでは、たてまえが身につくだけであり、いざ悩んだり苦しんだりしたときに、救いの力となりにくいようです。対話によって自己の心を深く掘りさげ、自分の生きる道を主体的に選択してこそ、自分うちこめる人生が拓かれてくるのです。それが独善的なものに陥らないようにするためには仏法に依らなければなりません。仏法に依るためには、仏法を心得た人と対話することです。

法然上人が対話を重視されたのはそのためではないでしょうか。その対話を依りどころとして、主体的に道を求めていくことを上人はおすすめるようになっていっているように思います。

念仏による仏法と主体性の深まり

念仏の教えは、仏法を主体的に受けとめ、

これを自発的に実践していく道であると思います。「南無阿彌陀仏」の称名は、みずから声を出してとなえるものであり、主体性が求められます。救いの力は、自分でなく、すべてのものを生かそう生かそうとする大宇宙の大きないのちの働き（無量寿仏）から与えられます。しかし、その大きないのちの力で救われたいと願う心は主体的なものであり、声を出して念仏するうちに培われていきます。

自分で自分を救おうとしても救えるものではありません。自分のいのちの根源ともいえるべき大きないのちの働きから力をいただくほかはないのですが、そこでは救われたいと願う心をひたすら念仏する主体性が求められます。法然上人が、愚鈍の身となってひたすら念仏せよと教えられたのは、主体性をもって謙虚に心を開けと教えられたのでありましょう。こざかしく知識をひれきして自分を飾りたてるのではなく、念仏によって仏と対話し、開かれた自己として大いなるいのちに生

かされて生きる喜びを味わいなさいという教
えではないかと思えます。

法然上人は「月かげのいたらぬさとはなけ
れどもながむる人の心にぞすむ」と歌われま
した。仏の救いを月の光にたとえて月の光は
どこにでも降りそそいでいるが、それを仰い
でながめようとする人にだけ月の光は感じら
れるのだと教えてくださっています。月を仰
ぐように仏を仰ぎ、すべての人を救おう救お
うとなさる仏の慈悲を素直に、主体的に受け
られる人間になりたいものです。

念仏の教えは主体的なものであり、他から
教義をおしつけられたり、説得されて身につ
けていくものでもありません。ひたすら仏と
対話する念仏によって心がめざめ、仏の導き
によって自分の生きる道を見出し出ていくも
のです。

先に述べた飲酒の是非を問う問答において
も、是非は各自の判断にゆだねられました。
自ら選んだ道は、歩む意欲をもちます。それ

が正しければ自信をもって進んでしよう。も
し誤った道を選択した場合でも、歩んでみる
ことで誤りをみつけ、自らの意思で正しい方
向へ転換するでしよう。

それに対し、他から強制されて主体性をも
たない生き方をするときは、正しい道も積極
的に進めず、誤った道であつてもそれに気付
かないということが少なくないでしよう。主
体的に生き、選択することをすすめられた法
然上人のお心もここにあつたのではないでし
ようか。上人御自身が、仏法をよくよく学ん
だうえで、聖道門を捨て浄土門を選択されま
した。『選択本願念仏集』にも「選ぶ」という
言葉が何度も出てまいります。

念仏は仏との対話であり、いのちの根源（無
量寿仏）との対話を通して、仏法と自己の主
体性にめざめていく道です。法然上人は、「念
仏者は戒に頼らない」と説かれました。それ
は次のような意味があるのではないでし
ょうか。戒は外から働きかけて人の行動を律する

ものです。念仏は内から自発的に仏と対話し、仏法と主体性にめざめていくものです。したがって、戒に頼って外から律しなくとも、ひたすら念仏申す人は仏法と主体性にめざめることによって倫理的な行動がとられるようになるということです。

「酒を飲んではいけませんか」という間に、「いけません」と答えるのは、五戒の一つ「不飲酒」を説くことになります。法然上人はそうのようにはお答えになりませんでした。戒に頼らなくても倫理的に行動できる人になって欲しいと願われたのでしょうか。それも現実をしつかりふまえての行動です。「この世のならい」として飲む人も多いことを知った上で、主体的に仏法に生きる人となって欲しいという願いをもたれたのではないのでしょうか。ひたすら念仏申す人には、それをやり通す勇気が仏から与えられることもよく御存知であったから、「まことには飲むべくもなければ」というようにあるべき姿をお示しになられたと

信じます。

* * *

いま、時代は大きく転換しようとしています。法然上人の時代も、古代から中世への大転換期でした。現代は近代からポストモダンへの大転換期です。こうした転換期の仏教伝道は平生と違ったものが求められます。

法然上人の「対話」、「相手の意思による選択」、「観念でなく現実の問題からの出発」は、現代の教化にあたる私達にも大きな示唆となります。そして何よりも、念仏という仏との対話を柱とする信仰生活は、人びとに新しい精神をもたらし原動力になるように思います。新時代を担う仏教教団として、私達の使命はますます重要になります。法然上人がその先駆者であってくださることを大きな喜びと感じ、日々の勤めに励みたいと思います。

(なぐらどうりゅう・龍谷大学教授)

御法語に聴く

このたびまことに先立たせおわしますにて
も、またおもわずに先立ちまいらせ候事
になる、さだめなきにて候とも、ついに一仏
浄土じょうどに参りあいまいらせ候まうらひわんことは、疑
いなくおぼえ候。

『正如房へつかはす御文』

この度、本来にあなたが先立たれることにな
るか、また、思いもよらず私が先立つことにな
るかばかりませんが、同じ阿弥陀さまの
お浄土へ往生してそこで再び出会うことは、
疑いのないこととてございます。

く え いっ しよ
俱会一処

九月。暑さもやわらぎ、阿弥陀さまのお浄土、亡き愛しい大切な方々の待つお浄土を想いつつ、よりお念仏に勤める秋彼岸がやってきます。法然上人も、次のようなお言葉をお伝えになっています。

阿弥陀さまのお浄土は西方にあります。日没の方角もまた西方です。ですから阿弥陀さまのお浄土は、まさに春秋の彼岸の日の入りの処にあたっているのです。（『逆修説法』二七日）

そうしたことから、お彼岸を詠んだこんな句が伝えられています。

西に入る 日に掌を合^てわす 彼岸かな

今、私はある研究会の一員として、終末期医療などの直面する新たな社会問題に対する仏教的アプローチを求めて学んでいます。先日、その会の仲間と東京都郊外にあるキリスト教を背景とするホスピスを訪れました。そして、チャプレンのお取りはからいでターミナル期（余命六ヶ月以内といわれる）にあるKさんというご婦人を

お見舞いする機会に恵まりました。

Kさんは、四十代から五十代と思われ、末期の肝臓ガンに冒されていました。Kさんは「こんにちは、お待ちしております」と優しくおだやかな声で私たちを部屋に招いて下さいました。お見舞いだ当日はたいへん気分がいいということで、身体を横になさりながらも、病気の経緯やホスピス入院までの経過、今の心境などを涙を拭いながらお話しして下さいました。Kさんは熱心なクリスチャンでもあり、今の自分にとって宗教の大切なことを語って下さいました。二十分ほどの時間でしたが、私たちにすべてを伝えようとなさっているかのようなKさんの精一杯のお話に、傍らで看病されていたお母さまが心配されて、無理をしないようにと何度もたしなめられていたのが印象的でした。最後に私は、Kさんの手をしっかりと握り、目にたまった涙をこぼすまいとして「必ずまた神さまの国か仏さまの国でお会いしましょう」と言って部屋を後にしました。

お釈迦さまが四苦八苦の中に「愛別離苦」を挙げられたように、この世ではどんなに愛しい大切な人とも必ず別離の日がやってきます。そうであるからこそ私たちは、「二期一会」という言葉に託されているように、ご縁を頂戴したすべての方々との出会いを、生涯でただ一度の出会いかもしれないと受けとめて、それを大切にしなければならぬのです。

けれども、お経の中には「俱会一処」という素晴らしい言葉があります。たとえこの世で別離しようとも、必ずまた俱に一つの処、すなわち阿弥陀さまのお浄土でお会いすることができるといえるのだ、という教えです。そしてその再会は法然上人の冒頭のお言葉にあるように「疑いなき」ことなのです。はたしてその再会は、どんな出会いなのでしょう。阿弥陀さまがお取りはからいして下さいますので、あれこれと思ひ煩うことはなさそうです。Kさんとの再会もまた、きつと素晴らしいものになることでしょう。Kさんはクリスチャン

ですから、阿弥陀さまが西方の彼岸から神さまの天国まで素敵な橋でも掛けて下さるのかもしれない。

最後に法然上人の次のお歌をお伝えいたしましょう。 合掌

露の身は つゆ ここかしこにて 消えぬとも

心はおなじ 蓮の台ぞ はな うゑ

(浄土宗総合研究所研究員・林田康順)

古き伝統技
三代にわたる信頼

有限
会社

浄土宗法衣専門
古島法衣店

〒111東京都台東区元浅草4の2の1
電話(03)3842・1289
振替00180245231

表紙は語る

野草花ごよみ

9月

マルババルコウ

(ヒルガオ科)

道ばた等にはえるつる草。非常に美しいが、あまりのはでな色に、何か日本古来の植物でないような気がするが、案の定南アメリカ原産の帰化植物で、江戸時代末期鑑賞用として渡来し、野生化したそうである。

撮影場所 埼玉県浦和市



もうひと花

スズメウリ (ウリ科)

道ばたや野にはえるつる草。写真はお腹（子房）のふくれたのが雌花。そうでないのが雄花。果実は白く熟する。名は同じウリ科のカラスウリに比較して全体として小さいことによる。

撮影場所 埼玉県浦和市

表紙Photo/Report

石井敏之

連載

名刹を訪ねる

真山剛

甲斐善光寺



山門から金堂を望む。参道左右にはいくつもの塔頭があったが、廃仏毀釈ですべて廃寺、僧侶も遺俗させられた

全国一のブドウと桃の産地として知られる山梨県の県庁所在地、

甲府の駅に降り立った。東京新宿駅から特急でおよそ一時間半、あつと言う間だ。ホームの名所案内には甲斐善光寺と、武田神社の文字が。今回はそう、戦国武将の雄、武田信玄ゆかりの善光寺を訪ねる。

甲府駅から身延線に乗り継ぐ。二つ目の駅が「善光寺」という名前の駅だ。無人駅の階段を降りるとそここの住所は「善光寺町」。正面遠くに山門が見える参道に出て歩くことおよそ5分。甲州善光寺の石碑を前に堂々たる山門がそびえている。年間五十万人近い参拝客の自家用車や観光バスのための広い駐車場が山門わきに広がる。

山門をくぐると境内の参道が続く。左右から松の枝が張り出してゐる。正面の金堂（本堂）は重要文化財だが、この甲斐善光寺を支えてきた数限りない信者や何代もの住職が守り続けた金堂である。

この金堂の前身の建物は現在の長野の善光寺の本堂を再建した時の手本となったものだが、東日本では、その長野、信濃善光寺の金堂に次ぐ大きさの古建築である。

さて信濃の善光寺の名前が出たが、この甲斐の善光寺（山号は定額山）と信濃の善光寺は浅からぬどころか、実に深い関係にある。

そしてこの二つの善光寺をつなぐのが、戦国時代に甲斐の国はもとより、中部、北陸、関東の一部をふくむ東国随一の領国を制定した



甲府駅の真北に位置する武田神社。武田氏の居館跡である

武田晴信こと、武田信玄なのである。

甲斐の武田と越後の上杉、この両者が激突したのが川中島の合戦だが、この合戦は歴史小説の格好の素材で、いくつも小説となっている。小説となると様々な脚色がほどこされるが、変わらないのは合戦の場となった川中島と、武田氏が上杉氏を破ったこと、そして合戦場近くの信濃善光寺に信玄が願をかけ、その善光寺の本尊が戦火に巻き込まれないよう甲斐の国へ移したことである。しかしあまり詳しくは語られないのが、信玄が信濃善光寺の本尊どころか、その他数多くの寺宝や当時の住職や僧侶までも庇護し、移住させたことである。甲斐善光寺の現住職、第七十一世、然譽浩人上人の甲斐善光寺小史（『甲斐善光寺』収録）の一節を抜粋してみよう。

「『前略』天文二十二年（一五五三）八月武田上杉両軍は信濃川中島で雌雄を決するところとなった。これが史上有名な川中島の合戦のはじめである。ところがこの川中島は善光寺平（長野盆地）の中央に位置するため善光寺と距離的に近接し、しかも善光寺裏の城山は陣を構えるのに絶好の地でもあった。そこで信玄は善光寺が兵火にかかるのを恐れ、本尊三國伝来一光三尊の阿弥陀如来（善光寺如来）をはじめとする諸仏寺宝類を佐久郡瀬津村（ねつむら）に移した。弘治元年（一五五五）のことである。この年の七月から始まっ

た二度目の川中島合戦は熾烈を極め、ついに八月八日上杉軍の本拠地となっていた善光寺は炎上することとなってしまった。この後弘治三年にも三度目の甲越軍の衝突が起こったため、信玄は安全な場所に善光寺如来を奉還することを決意するに至り、善光寺創立の大旦那本田善光（よしみつ）公葬送の地にして善光墳墓の旧跡たる、如来宿縁の地、ここ板垣の郷をその地と定めたのである。

時に永禄元年（二五五八）、信玄は本尊善光寺如来その他諸仏寺宝什器類並びに善光寺大本願第三十七世鏡空智冠（きょうくうちか）上人（浄土宗）以下僧徒堂衆に至るまで一山悉く信濃より迎えるという大事業に着手した。『後略』

歴史小説にはここまでの話は出てこない。どうしても合戦や国取りに目が向いてしまうのは作家の常であり、その根底には読者であるわれわれが合戦や国取りというドラマを好むからだろう。しかし歴史をゆっくり振り返ると、とくに戦国時代の武将は神仏、とくに仏をその心の拠り所に行っていることが少なくない。戦で数知れぬ人の命を奪うのである、その心中を察すれば、仏を拠り所にするのはむしろ自然なことなのかもしれない。

信玄の好敵手であった上杉謙信は林泉寺という浄土宗の寺に深く帰依していて、上杉氏がその後米沢へ移った後もその信心は変わる

ことがなかった。また比叡山を焼き打ちした織田信長は確かに安土城の足下に各宗派をまとめた寺を建立、諸仏をまとめて自らの下においたが、それでも岐阜の長良川の崇福寺に長男とともに眠っている。考えてみれば戦場はもとより、居城にいてもいつ襲撃されるかわからない時代である。武将たるもの、いつも死と隣合わせ、いやがもうても死に向かい合わざるを得ない。それだけに念持仏（ねんじぶつ）として仏像を近くに置くことも多い。先月号で徳川家康の念持仏、勝軍不動を紹介したが、それなどはいいい例だろう。おそらく全国の寺には各地で国を治めた武将の守り本尊や、戦での勝利を祈願した仏像があまりに残されているに違いない。

ただ武将の死生観は禪宗と相通じるように、信玄のお膝下の甲州にも曹洞宗、臨済宗のお寺が多く、全寺院の六割以上が禪宗の寺である。ちなみに甲斐善光寺のある「善光寺」町の隣町も臨済宗の寺の名をとって「東光寺」町という。戦場を駆け巡る武将が禪寺の庭に一人佇む景色は想像に難くない。信玄の菩提寺は山梨の塩山市にある恵林寺（えりんじ）だが、これも臨済宗の寺である。

さて、信玄を開基とする甲斐善光寺に信濃から善光寺如来が移されたのだから、その後もこの本尊は信長、家康、豊臣秀吉によって各地を転々とすることになる。というのもこの本尊、一光三尊阿弥陀

定額山善光寺第七十一世、吉原浩人住職



定朝様式の阿弥陀三尊像、重要文化財だ



来年一斉の開帳となる信濃、甲斐の善光寺と飯田の元善光寺の御開帳のチラシ

如来、別名善光寺如来は中国から伝わった生身の仏として多くの伝説を残す仏なのである。「牛に曳かれて善光寺」は有名だがこの仏にはこうしたいくつもの物語りがある。その仏の由緒を記した『善光寺如来縁起』が複数伝わっているが、この研究の一線として活躍するうちの一人が実は、第七十一世の吉原浩上人なのである。

吉原住職は昭和六十二年、三十二歳の若さでこの古刹を預かることになった。生まれは祖父である先々代がこの甲斐善光寺とともに住職をしていた東京芝にある常行院。この寺はかつては浄土宗大本山増上寺の塔頭であった寺である。小学校四年の時に家族で甲府へ移り住んだのだが、まだ芝にいる3歳頃から祖母に「あなたは学者にならなさい」と言われ続けてきたという。その言葉通り学者の道へ。といっても、もちろん自らが選んだ道だが、早稲田大学の教育学部で国文学を学んだあと同大学大学院で東洋哲学を学び、現在は日本思想史と仏教学を同大学大学院で教えている。週二日は甲府から早稲田へ、六コマの授業をこなす。土日はもちろんの事、平日もこのように忙しいが、檀家をおろそかにせず両立させている。毎月第三日曜の早朝には念仏と法話の集いを持ち、現在は寺を地域により開かれたものにするよう檀信徒会館も建設中だ。

吉原住職になぜ日本思想史を選ばれたのか聞いてみた。



「日本人としての自分のアイデンティティを見つけ出したかったからです」と即答してくれた。日本思想史の中でも院政期が専門で、この時代は様々な日本思想が発露した時代だという。

「時代の曲がり角の人物は面白いです。どんなに才能があっても平時では埋もれてしまうような人物が、そういう時にはたくさん世に出て来る」

話をしてみると実直で、まさに学者ぜんとしている。取材に備え、多くの資料を用意していただいたが、国文学関係の雑誌によく原稿を依頼されるとのこと、その執筆テーマを見ると先の院政期のテーマが多いが、「善光寺縁起」や「善光寺信仰と文芸」といったテーマもいくつも見受けられた。話を聞くと、平成五年に発足した全国善光寺会の副会長も努めており、長野で善光寺縁起関係の講演を何度かしたという。

さて、『善光寺縁起』の主役はもちろん本尊三國伝来一光三尊の阿弥陀如来（善光寺如来）であり、その阿弥陀如来を世に出し、寺名のもととなった本田善光公である。

ここでその如来を簡単に説明するところなる。

インドからやって来た日本初の仏であり、しかも生身。宗派を問わずすべての人に極楽往生を約束し、とくに女人救済の仏として名



高い。多くの名僧や武將に崇敬され、戦国時代は各地を転々とした。かつては出開帳と言って、全国各地で開帳され、多くの人が集まった。またそれを縁に善光寺というお寺がいくつも建立された。しかし信濃の本尊は絶対秘仏であり現在では前立本尊が七年に一度開帳されるだけである。

と、少々乱暴だが、こういう仏さまなのである。そしてこの甲斐善光寺にはその本尊の前立仏が本尊として残るほか、信州から信玄が移した多くの寺宝が残っている。本尊と僧徒は戻ったが、寺宝は甲斐の国に残されたのだ。寺宝は巻頭グラビアで紹介するが、本当に貴重な品々が展示されている。

全国善光寺会事務局の調べによると全国に善光寺関係施設は五百二十一あるそうだが、その中でもこの甲斐善光寺は信濃善光寺に次ぐ名刹だ。来年からは信濃善光寺と信州飯田にある元善光寺とともに本尊を七年の一度の御開帳とする予定だが、甲斐善光寺の本尊は来年の開帳がなんと八十年ぶりの開帳となる。平成九年四月六日から五月三十一日までの三か寺そろっての開帳となるのだが、おそらく全国からの参拝客でこの境内が埋め尽くされることになるだろう。

(ルポライター)

「かれのいうことは、いつもホラばかりで信用できないヨ」とか「大ボラを吹く」などよく使われる、この「ボラ」も、やはり仏教から出た言葉です。

広辞苑にも「法螺貝の略。おあげさということ。でたらめをいうこと」と出ています。この法螺貝というのは、本来螺貝というのが正しいようで、法螺貝といわれるようになったのは、中国でできた漢訳仏典からのようです。

螺貝は、インドでは吹奏楽器

の一つとして使われていて、今日でも南洋の原住民の間では楽器として使われています。古くは漁場での合図にこれを用いたり、人を集めるのに用いたりしました。また、インドでは戦場でこれを吹いて出撃の合図に用いたりしたようで、日本でも昔は軍陣での合図に用い、陣貝と呼んでいました。

仏教では、螺貝を吹くことを仏の説法に喩えて、中国の翻訳者は法螺と訳したのです。

一般には仏が説法することを、

法螺

ほら

てきうりん
転法輪、すなわち教法の輪を転がすとか、獅子吼、すなわちライオンの遠吠えとかの表現をもつて喩えています。これらと同様に、大法螺を吹くというのも、仏の説法の喩えとして用いているのです。

おそらく「釈迦のようならぶつたお説教をする」という意味がもともとの意味でしょうが、それが「大げさな言葉をいう」の意味に代わり、さらに「ウソをつく」という意味になったのでしょうか。

京都一千年の歴史に

育まれた巧みの技

京仏壇・佛具は当店に!!

☎六一五 京都市右京区

西京極南衣手町七四

(株)島津法衣佛具店

☎〇七五—三一四—七七六八
FAX〇七五—三一五—三七五三

AMERICA

外国で
生活して
⑭



1996年5月着任後ホノルル別院前で



1960年頃NYCのCoffe Shopで

柴村知海

外国は結構旅行して歩いたが、外国で生活したとなると、アメリカに限られる。しかし生活した時期と環境が、ずいぶん違う。

西暦でいうと、最初が1949年から53年、日本が敗戦して4年目である。次が1958年から1962年、まだ米ソ冷戦の真っ最中で、アメリカは軍備拡張で潤っていた。

そして3回目がある。1996年の今年4月からハワイ開教区総監として、ハワイ州のホノルル浄土宗別院に駐在している。

第一回目は留学生、第二回目も留学生で出た。あと商社マンに変身、そして第三回目は現在、僧侶である。年齢も最初は十九歳から二十歳の前半、次が二十歳後半から三十歳前半という世代。そしていまは満六十六という年齢だ。

第二次大戦の戦勝国で最盛期のアメリカから、朝鮮戦争やベトナム戦争で傷ついたアメリカ、そしてもう対等に敵対する国が無くなったが、貿易と財政赤字に喘ぐアメリカ生活を、いま私は体験している。

1950年代のアメリカは、まだ黒人に対する差別が厳然とあった。しかし全般的にはおおらかな風情があった。私はもう亡くなった吉田茂という総理大臣が外務大臣であった頃のパスポートを、記念に保存してある。ナンバーは437番で、1949年(昭和24年)7月20日の発行である。

私が留学生として1年近く過ごした南部のアーカンソー州は、黒人人口が白人を上回っていた。そしてあらゆる公共の場所は、白人と黒人用に分けられ、人種はモンゴリアンと書かれた入国許可証を持つ私は、「黒人は後部から乗車」と書かれたバスや、「白人専用」と明記されたレストランの出入口で、ウロウロしたものだった。

しかし後部から乗車すると、前へ座れといわれたり、「白人専用」と書かれたレストランに入っても、何もいわれなかった。そこで三省堂の辞書に黄色人種とでているモンゴリアンは、白人の部類にはいるのかと、ずいぶん長い疑問に思った。

これは後日他の留学生と話し合ったとき、

結局黄色人種は黒人ではないと、簡単に考えればいいんだということが分かった。しかし当時アメリカの入国許可証に、RACEという人種欄があったことを知っている者は、少ないだろう。

そういえばいま、「非住居者」と書いてあるゲートが、1960年代の空港ではALL-EN（異邦人）と書いてあったことを知る者も、少なくなっただろう。まったく現代は急速に変化している。

アーカンソー州生活1年後、中西部といわれるミズーリ州の、コロンビアという市にある州立大学に転学した。このときから3ヶ月もある夏期休暇を利用して、シカゴやニューヨークに働きにでた。

貧乏学生の当時、交通機関は友人の自家用車に、ガソリン代を払って同乗させて貰うか、グレイハウンド・バスを利用することだったが、ここで面白い体験をした。

コロンビア市からバスに乗り、北方向に向かってシカゴに近づくと、バス前部の白人乗

車口からも、黒人がどんどん乗ってくる。南部からずっと乗車している黒人と、彼らは服装も態度も違う。そして南部では黒人が前部から乗ると文句をいう運転手が、何もない。

後で白人の友人に聞いてみたら、北部に近づくと、黒人差別は一応表面的には無くなるのだと説明してくれた。なるほど南北戦争を考えれば、そうなる現象が理解できる。

外国に住み、その国民の文化を理解するには、まずその国の歴史を知らなくてはならない。英国中世期の哲人で随筆家、フランシス・ベーコンがそう書いているのを、英文学のクラスで読まれた。アイルランド系の、中年女性が講師だった。

この州立大学のあるコロンビアは、ブルースで有名なセントルイスと、カンサス・シティの中間にある市で、当時州立大学の他に、二つの女子大があった。一つは中西部の金持子女が在籍するスチーブンス・カレッジ、いま一つは地味な女子大で、クリスチャン・カ

レッジといった。

この三つの大学が授業中の市の人口は約三万人、イースターやクリスマスで休暇になると、この人口はいっきよに六千人くらいに減ってしまうという、いわゆる大学町である。私がなぜこの大学を選んだかというと、ここに世界で一番早く設立されたジャーナリズム学部があった。

ここに転学したのは1950年だから、まだフルブライト留学制度もなかった。従って当時日本から来た留学生は、わずか10名内外であつた。しかしハワイを含め、アメリカ全土からきた日系アメリカ人が同数くらいいたと思う。当時中西部のアメリカ人には、日系アメリカ人と、日本人留学生の区別がつかなかった。だから日系アメリカ人の友人が、われわれ日本人留学生と同等と見られると、複雑な表情を浮かべていた。

このとき、アメリカ本土に在住している日系人と、ハワイに在住して本土留学している日系人に、自意識の差があることを学んだ。つまりアメリカ本土の日系は、常に白人社会

に身を置き、白人と同等意識を持って生活をしているが、ハワイの日系は日系としての同族意識が高い。

この微妙な文化差は、一般のアメリカ人は理解できないであらう。そして一般の日本人にも、この差が分かる人は少ないと思う。この文化差が理解できる前提条件は、アメリカ本土在住の日系と、ハワイ在住の日系と交流することである。

またハワイ在住の日系が本土留学すると、ハワイ在住日系との間に、自意識の差が出てくる。なぜならアメリカ本土の日系は少数派であり、ハワイ日系は多数派であるからだ。これがハワイ日系が、アメリカ社会の中でも日本文化で生活できる理由であり、逆説的にいうと、アメリカ本土在住の日系は、それから脱却しないと、アメリカ本土で生活できない。

しかし現在ハワイに居住して、ハワイの日系社会で生活してみると、ハワイでのみ生活している日系が、日本文化と思っている現状は、半世紀以前の日本の、それも地方文化で

あるという事を痛切に感じる。

この現状を認識してハワイ浄土宗教団の未来を展望すると、その将来は厳しい。なぜなら現在の三世、四世には理解できないものが多いし、受け入れてもいない。また現在の年輩の信徒が采配を振るっている教団組織に、若い世代は入れて貰えない。

例え入れては貰えても、半世紀前の日本の地方の村意識が濃厚に残る運営方法には、ついて行けない。事実当地へ赴任して2ヶ月足らずだが、新世代と話してみると、そのような意見が噴き出してきた。この古い世代をどう啓蒙して、若い世代を教団信徒に引き入れるかが、これからのハワイ浄土宗教団の課題である。

1950年代から一足飛びに現在に来てしまったが、このミズーリ州立大学の3年間で、いまも通用する私の人生観を創りあげたと思う。そしてこのとき学んだジャーナリズムの基本概念と技術が、その後遭遇する様々な職業、科学、社会、政治、人間関係、それにい

ま直面している宗教価値観の分析や理解に、役立っている。

だからこのミズーリ大学時代のエピソードはたくさんある。毎日4、5時間しか寝られなかったことや、諸外国の留学生との交流、アメリカ大学の政治学や心理学講義の面白さ、関心を寄せてくるアメリカ人学生との社会や宗教談義など、枚挙にいとまがない。しかしまた1958年にアメリカ再留学をし、暫くして商社マンになった頃、即ち1960年代の私のニューヨーク生活はどんなだったか、ちよつと振り返ってみてみよう。

当時はまだジョン・F・ケネディが無名の上院議員だったし、キューバのカストロが革命に成功し、ニューヨークのセントラルパークの入りに演説したのを、ニューヨークカーが喝采をして聞いていた。またブロードウェイでは「マイフェアレディ」や、「サウンド・オブ・ミュージック」のミュージカルが、人気を呼んでいた。

昼間は商社に勤め、夜間にはニューヨーク私立大学での貿易学を学んでいた私は、その学費を稼ぐため、日米協会から紹介されて、FNCBという銀行の外国部幹部に、日本語を教えていた。商社が就業する前、午前8時から9時までの授業である。

このスケジュールはきつい。朝6時半に起きて朝食を作り、7時45分までに銀行に入る。そして8時50分には銀行を出て、勤務先商社に着く。9時から夕方6時まで20品目以上の製品受け渡しをして退社。そのまま私立大学に向かう。途上で夕食を立ち食いするが、ほとんど毎日ハンバーガーかホットドックだった。

夜7時から10時までの3時間の講義は、相当緊張してないと眠ってしまう。実際いつも寝ていた学生が数人いた。しかし自分も昼間勤務している講師は、思いやりがあるのだろう、そのまま寝かせていた。しかし講義内容は昼間大学と同様で、宿題もあり採点も厳しい。

そんな毎日を月曜から金曜までおくれた私は、週末がくると、十時間くらいはグッスリ

と寝た。土曜の昼頃起きると、すぐ洗濯をする。そして洗濯の間に朝食を済ませる。まだテレビが一般家庭まで普及していなかった時代だから、午後は友人を誘って映画を見たり、音楽会に行ったり、スケートをしたりして週末を楽しんだ。

当時からニューヨーク駐在の商社マンや銀行マンはゴルフに凝っていて、週末はゴルフと決めていたらしい。しかし三十歳を過ぎたばかりの私は、もっと好奇心が旺盛で、この若さでゴルフをするのはもったいないと思っていた。またこの頃のニューヨークは、どこへ行っても安全で、真夜中ブロードウェイを歩き回っても、不安を感じることはあまりなかった。

そんな体験があるから、またハワイまできて開教総監ができるのだろう。しかしもう還暦を過ぎている。しかも総監という職務は、前記したような事情もあってしんどい。自重しなければと思っている。

履歴書

氏名： しばむらち かい 柴村知海 生年月日：昭和5年1月13日

浄土宗歴

- (所属寺院) 東京教区城南組専心寺
- (僧籍登録) 昭和39年8月10日
- (師僧) 柴村民諒
- (僧侶養成) 昭和41年8月8日「少僧都養成講座」終了(大本山増上寺)
- (伝宗伝戒) 昭和42年12月25日成満(総本山知恩院道場)
- (僧階) 昭和43年3月1日「少僧都」叙任
- (学階) 平成5年12月24日「得業」授与
- (聖書伝授) 平成6年10月31日成満(大本山増上寺道場)

学歴

- (昭和17年) 東京都港区白金尋常小学校卒業
- (昭和21年) 東京都港区芝中学校卒業
- (昭和21-22年) 東京都豊島区大正大学予科在学
- (昭和22年) 東京都練馬区日本大学芸術科写真学科入学
- (昭和24年) 米国アーカンソー州オザーク・カレッジ入学
- (昭和25年) 前記日本大学芸術写真学科卒業
- (昭和28年) 米国ミズーリ州立大学新聞学部卒業 (Bachelor of Journalism)

職歴

- (昭和28-31年) 朝日新聞社英文誌「This is Japan」編集員
- (昭和32-33年) 米国シカゴ・デイリー・ニュース社東京支局
- (昭和33-36年) 丸紅飯田米国会社ニューヨーク店
- (昭和37-39年) タイムライフ社。NBC-TV東京支局でフリーランス
- (昭和40-41年) 株エッソ・スタンダード石油広報室新聞係長
- (昭和41-44年) 国際貿易・業務提携コンサルタント
- (昭和45-49年) 株浅草玩具貿易部長
- (昭和50-56年) 滝野特許事務所外国部長
- (昭和56-57年) 有客観社経営(雑誌出版)
- (昭和58-60年) 株ジェッド取締役(学術発明開発)
- (昭和60-61年) 株アクソン・リサーチ取締役(医療技術開発)
- (昭和62-64年) 特許技術移転コンサルタント
- (平成元年) 株JHP代表取締役

想 随 篇 掌

腹の立つことはいろいろあるが、今回は、アトラクタ五輪について書いてみたい。

「とらぬ狸の皮算用」ではないが、始まる前に柔道でいくつ、競泳でいくつなどとメダルの数を数えて、期待ばかり膨らませておいて、いざ期待通りにいかないと、ああだこうだと言いだすマスコミと世間。

そしてまた、金メダルが銀や銅となったからと喜ばぬ選手。オリンピックのたびにこんな光景を見る。いいかげんにしろっ

てんだ。

いいじゃないか、そんなこと。世界の選手をよく分析しないで、自国の選手の調子のいい時の記録ばかりを頭に浮かべて、期待ばかりふくらませる。そしてそれがみんなに伝染し、期待を裏切られたといつてがっかりする。選手にしてみれば、冗談じゃない、と言いたいだろう。

期待通りじゃなくても、マスコミや世間はもつと選手を褒め、讃えてやるべきだ。そこにたどりつくまでの、努力に努力をか

② しろに減加いい

さねたことこそ、人が生きる上で最も大切なことであるのだから。

そして選手は自分を誇りに思いなさい。メダルが取れなくても、あなたがたは五十八億人いるといわれる世界で、第〇位という、素晴らしい力をもった人なのだ。一生懸命やったことに、もつと誇りを持ち、喜んでほしい。もちろん、悔しさはあろう。それはそれでこれからの闘志にすればいい。

(順)

薫香
線香
經典
念珠

浄土宗総本山知恩院御用達

豊田愛山堂老舗

※地方発送受賜ります。

京都・祇園
TEL(075)551-2221番(代)
FAX(075)525-1806番

7月号「くも吉とチョウ」後篇

童話

くも吉の 旅路

斎藤耕善

くも吉は目を閉じてはいましたが、まだ意識は定かでありました。その証拠に、自分をくわえて飛んでいるツバメが、東の方に向かっているのがよく解ります。

夜明けの太陽が、くも吉の閉じた瞼の上にトキ色の光りと、仄かな暖かみを感じさせてくれているのです。

もう、あと何十秒か、間もなく自分は、お腹を空かせて母ツバメの帰りを待っている子ツバメの、あの大きな可愛い口の中へ、ト口ト口にそしゃくされ、液状の飼となつて流し込まれるに違いありません。

くも吉は今、しみじみと自分の来し方を顧みて、自分つてほんとうにしあわせだったんだなー。と思うのであります。

その第一番目に挙げられる理由は、今は亡き母さんぐもが、ぼくたちを生み育てる場所

として、この新生日曜学校を設けているお寺の境内を選んでくれたことであります。

——なぜかと言えば、人里離れた畑の隅などにある木の枝にでも巣を掛けられていたら、もうとつくにツバメや野鳥についはまれていたに違いありません。子ども好きな和尚さんは日曜日でなくても、子どもたちが門前を通れば話しかけるし、日曜学校ＯＢの中学生までが、朝な夕な「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」と手を振りながら行き交うので、ツバメや野鳥たちは、目の前に餌となるくもがいるのを眺めながらなかなか近づけないのでした。——そんな訳でお寺の境内は、くも吉たち親子にとつてもつとも身の安全が保てる格好な場所でありました。

今一つは、日曜日ごと本堂を教場として開かれる学校は、くも吉にとつても楽しいひと

ときでありました。

学校のきまりでは、小学校の一年生から六年生の児童となっていたようですが、中には保育園年長組の子が、父母から再三和尚さんに掛けあい入れてもらったり、高校生になったお姉さんまでが通っていました。

授業は次のような日課で進められているようでした。

始めに日直さん（一年生から六年生までが毎週ローテーションに従い勤める）が

『気をつけ。礼!!』

と号令を掛けると、校長の和尚さんと生徒たちがいっしょに声を揃えて

『おはようございます』

と互いにあいさつをします。それから本尊さまに向かつて

『合掌、同称十念』

と曰直が言うと、みんなが

『ナムアマミダブ、ナムアマミダブ、ナムアマミダブ、ナムアマミダブ。…ナムアマミダブ、ナムアマミダブ、ナムアマミダブ、ナムアマミダブ。…ナムアマミダブツ、ナムアマミダブ。』と唱えていました。

次に校歌「月かげの歌」が

月かげの いたらぬさとは

なけれども

ながむる人の 心にぞすむ

と二回繰返し斉唱されます。それから次に、

『誓いのことば』

といって、次の七つの誓いを唱えます。

一つ私たちは いのちを大切にします。

一つ私たちは 父母を敬い、いいつけを守ります。

ます。

一つ私たちは しぜんを愛し、生きものをい

たわります。

一つ私たちは 人の持ち物を欲しがりません。

一つ私たちは 友だちと仲よくします。

一つ私たちは ぜつたいに嘘をつきません。

一つ私たちは さいごまでがんばります。

誓いのことばが済むと、和尚さんは生徒たちに十分間瞑想をさせます。ときどき和尚さんの厳しい戒めのことが聞こえて来て、なんだか、自分までが注意されているようで、

くも吉は身の引き締まる思いをしたことがありました。

『なにを考えているんだ!! 瞼がピクピク動いているぞ…口をしつかり閉じろ!!』

『何も考えるな。外の音も、何も聞こえない。

唯、静かに吐いたり、吸ったりする自分の呼吸の音だけが聞こえる筈だ。……すると、ああ、自分は生かされているんだ。これがいの

ちだ。と解る筈だ。…いいな。』

そんなふうに教えている和尚さんは、瞑想が終わると、

『みんな、よく瞑想ができた。……ご本尊さまのお顔を合掌して、よく拜んでごらん。につこりと、ほほ笑んでおられるでしょう。』

実はな、けさ阿弥陀さまが、「子どもたちがしつかり瞑想できたら一粒ずつお口に入れておやり。」とおっしゃって、この黒飴を下さったので、お口をアーンと大きく開けてごらん。』

と言って次々にみんなの口の中に黒飴を一粒宛入れてやるのでした。——そうして仏教童話を静かに語りかけるように始めるのでした。

くも吉が、数秒後迎える「死」を前に今はつきりと、思い出した童話は、「虎に我が身を与えた王子」とかいう題のお話でした。

「昔、三人の王子がお城を抜け出して、とある森にハイクに出かけました。青葉、若葉の茂る森は太陽の光を受け、エメラルド・グリーンに輝やいていました。三人の王子は、木の間漏る光のトンネルを通り抜けて、小高い見晴しのよい丘の上に来ました。その時、ふと見ると、崖の下に七匹の子を産んだ母虎が飢えに耐えられず、今にも我が子を食べようとしているではありませんか。——それを目のあたりに見た長兄、次兄の王子は、恐れおののき、一目散に逃げてしまいました。末つ子の薩埵（さつた）王子は、我が身を母虎に飼として与えて飢えをいやし、七匹の虎の子のいのちを救ってあげようと、突嗟（とっさ）に崖の上から身を躍らせて、この虎の母子のいのちを救ってあげたのでした。……そうだ、この薩埵王子が母子の虎を救ってあげたように今

ほくもツバメの子どもの尊いいのちを支えてあげられるのだ。——と思うと、くも吉は身も心も軽くなつていくように感じられました。

「もうぼくは、くも吉」というくもではないのだ。ああ、なんと美しい雲であらう!! あの柔らかな五色のひかりは、いったい何処から降り注いで来るのであらう?」

それから、くも吉はふと、あの助けてあげたモンシロチヨウの事を考えました。「あのモンシロチヨウは、うまくお田さんに会えただらうかな——」……そういえばあのお寺和尚さんが、あるお彼岸のお中日に、「六方礼経」とかいうお経の法話をされていたつけ。

「父田が東方なり、師が南方なり、妻が西方なり、朋友が北方なり、傭人^{ようじん}が下方なり、沙門が上方なり」と。そう言えばモンシロチヨウは東の山の端から昇つた、お月さんに向

かつて舞い上つて行つたんだから、もうきつとお田さんと再会しているに違いない。……でも和尚さんはまだ、こんなことも話しておられた。

「西の彼方遥かなる処に一つの世界あり、名づけて極楽という。彼の土に仏存します、阿弥陀と号したてまつる。今現に存しまして衆生を導きたもう」と……なるほど、そうしてみると、あのモンシロチヨウも、ぼくが見送つた時は、丁度中天に懸^{かか}つた満月に吸いこまれるように消えていったんだから、もうとくに、西方浄土に母子一緒になつて詣でいるに違いない。——そういえば、さつきからぼくのからだは、なんとなく軽くなり、ふわふわと無意識のうちに飛んでいるようである。そこで、ふと自分のからだを眺めてみると、あーら不思議。くも吉のからだは丁度ローマ

念珠



■ 伝承の技と心

念珠の修理・仕立替承ります。

○ アクセサリーの修理・加工・リフォームも承ります。

◆ カタログをご請求下さい。
「念珠年報」をお届け致します。



平野屋

本店 東京都文京区湯島4-5-3
☎(03)3811-4450 〒113

四谷店 東京都新宿区四谷2-8
☎(03)3355-2250 〒160

神話に登場するキューピッドのように、左右四本宛ある足の間、頭胸部の境あたりから、二枚の真つ白い羽根が生え、ひらひらとモンシロチョウのようにはばたき、西へ西へと向っているではありませんか。…そうです。くも吉は、バラ色に輝やく極楽浄土へと、旅を続けているのであります。 完

(山梨・西運寺住職)



昭和52年10月25日
仏教童話の感想文を書く日校生



平成8年2月11日
低学年硬筆、中、高学年毛筆習字にはげむ生徒たち(授業料なし。教材、用紙等寺持ち)平成2年から請われて書道の時間が加えられました。教室の準備、後片づけは学年交替。

続

午後の日差しの中で

行儀とマナー

吉川英明



以前この稿で、風俗や習慣の変化から、最近死語になりつつある言葉について書いたことがあった。

合羽、ねんねこ、ハイカラ、などのように今ではほとんど使われなくなり、見掛けなくなった言葉について書いたのだが、先日、テレビでウィンブルドンのテニスを見ていて、行儀、お行儀という言葉も、最早瀕死の状態にあるのではないかと思った。

ウィンブルドンのテニスを見てお行儀とは、どんな連想かと思われるかもしれないが、女子シングルス決勝のグラフとサンチェスの試合のことだった。

ネットしてコートに転がったボールを拾おうと駆け寄ったボールボーイに、サンチェスがボールを蹴って渡したのだ。

当のサンチェスはもちろん、蹴られたボールを受け止めたボールボーイも、何とも思っていないのかもしれない。

しかし、見ていた私はかちんときた。態度が悪い。マナーが悪い。行儀が悪い。

試合中、わざわざボールを拾って投げてやるプロの選手はいないが、大抵はラケットの先で軽くトスするか転がして渡している。ボールを蹴って渡すということは、ポランティアとしてこの大会に奉仕しているボールボーイを下風に見ての傲慢な振る舞いだ。

ただ外国人の場合、足を使って何かをすることには、日本人より寛容な気がする。机の上に足を乗せるなどという光景も映画にはよく出てくる。

サンチェスの行為に強い不快感を覚えたのは、私だけなのだろうか……そう思って周囲に訊いたら、私と同世代の連中は揃ってサンチェスを非難した。しかし、テレビを見ていた大多数、殊に若い人達は我々ほどの憤りを感じていないかもしれないということでも意見が一致した。

スポーツの場合、行儀作法とはほぼ同義の言葉にマナーがある。サンチェスのような例も、行儀が悪いとは言わずにマナーが悪いという。しかし、一昔前に全盛を誇ったチャンピオ

ンのマッケンローのように、大声で審判に悪態をついたり、ラケットを投げたりする選手は、マスコミもマナーが悪いと言って叩くのだが、こうしたちよつとした行為は見逃してしまう。

そんなことで、いちいち目くじらを立てるなという人もいるだろうが、私にはすごく気になる。その男なり女なりが、スポーツのマナー以前の、日頃の行儀作法をどう身につけているかが出てくるからだ。

幸いというか、さすがに日本のテニスの選手で、ボールを蹴る人はいない。

本来日本人は、行儀に関しては、世界中のどの民族にも劣らず厳しかったはずである。足て冷蔵庫や部屋の扉を閉めるのは行儀が悪いことだったし、歩きながら物を食べることも、テーブルに肘を突いて食べることもそうだった。目上の人に背中を見せて座ると、お尻を向けてはいけないといって叱られた。ところが、我々が子供のころやかましく言われたこうしたお行儀は、今はことごとく無

視されている。

こんなことを書いている私でも、そうした風潮にはかなり染まってしまったとみえ、街を歩いていても、あまり細かいことまでは気にならなくなっているのを感じる。

だが、ときどき、どうにも我慢できないような光景にもぶつかることがあるものだ。

先日、六本木の中華料理店で食事をしていたら、夫婦と娘の三人づれが入って来て隣のテーブルに席を取った。

最初は、気にも止めていなかったが、そのテーブルに料理が運ばれてきて、三人づれが食べ始めると、私の左手に座っていた友人が、あからさまに顔をしかめる。

振り向くと、三人が大皿で出て来た春巻に取り掛かったところだったが、その娘の食べ方が何とも凄まじい。

ジーンズの両足を大きく開いて椅子から落ちそうなほど浅く腰掛け、テーブルに両肘をつけて右手の箸で春巻を掴み、左手には取り皿を持って顎の下にあてがっている。両肘を



イラスト・平野
稔

ついたまま、手首だけを曲げて春巻を噛る度に、ぼろぼろとこぼれ落ちる揚げ皮のかけらを皿で受け止めながら、休みなくしゃべり続けているのだ。

娘といっても、中学生や高校生ではない。どうみてももう社会人といった年格好だ。娘のこんな格好に無頓着な両親はと見れば、これももう夫婦とも五十は過ぎていると思えるカップルなのだ。

「何だ、こりゃあ……」

吐き捨てるような友人の怒りの呟きに、私も同感だった。十人並みの器量はしているというのに、その娘の食べ姿は、さして高級でもないその中華料理屋の雰囲気の中にあっても、この上もなく醜いものだった。

この娘とて、恋人と食事をする時には、まさかこれほどひどい格好はしないだろう。気心の知れた両親との食事なのでいつもどおりの食べ方が出たのだろう。

だが、そこは彼らだけしかない家ではない、周囲には他人が大勢一緒に食事をしてい

る場所なのだ。

いい年をした親もそのことに無関心。そうした公の場所での食事をしているという配慮にまったく欠けている。この三人の家庭には行儀とか、嬢という言葉は初めからないのだから。

となると、この娘の恋人だって可哀相だ。

恋人だったころは、気取って食べていた女が、結婚後一年もしないうちに、まるで猿のような格好で物を食いだす。

当然、生まれてくる娘も母親に似るだろう。娘が二人出来たら、その四人の孫たちもみんなそうなる。八人の曾孫、十六人の玄孫と、そういう行儀を知らない子供たち若者たちがねずみ算的に増えていけば、やがて日本人全員が公の場所で、あんな格好で食事をするのが平気になってしまう。そのころには、我々の年代はみな死に絶えて、文句を言う奴もいなくなる。

余計な心配だと言われればそれまでだが、そんなことを考えていたら、突然折角の酒も

料理もまずくなった。

まさか、他人のテーブルに出掛けて行ってお宅の娘さん（お嬢さんではない）の食べ方を何とかしろとも言えないから、余計に鬱憤が胸に溜まる。

友人たちと、世の中、目に余る行儀、作法、マナーをあげつらって胸のつかえを晴らしたことだった。

「どうして、日本のプロゴルフアーっていうのは、ああ柄が悪いんだい」

Mが、苦そうに老酒を飲み干しながら言う。たしかに、ゴルフでは、ミスショットをするとキヤディーに向かってクラブを投げる尾崎という大男が日本の第一人者だし、彼の他にも、インタヴューに答える作法を知らないプロが大勢いる。テレビの画面に向かって話す言葉がぞんざいで無礼なのだ。

彼らにしてみれば、顔見知りの若いアナウンサーを下目に見て、ああいう口を利くのだろうが、それが大きな間違いだ。自分は今、画面を通じて全国の視聴者やファンに向かっ

て語りかけているのだということが分かっていない。これを真似する若いプロたちも自らの無教養をさらけ出しているようで見つめない。

「野球にもいるな……」

Aが、話を切り替える。

そう、プロ野球では現在最高の大打者と目される落合というジャイアンツの四番バッターが、時々バッターボックスをはずしては、グラウンドにべっと唾を吐く。

野球の選手が唾を吐くのを、マナーが悪いとか、行儀が悪いなどと言おうものなら、アメリカ辺りでは鼻で笑われるだろう。日本に來ている外人選手もガムを噛みながらよく唾を吐く。

だが、野球の選手だからといって唾を吐いていいというものではない。

そもそもグラウンドは、彼らの仕事場、神聖な場所であるはずだ。高校野球の選手たちなら、その砂を持って帰るほど心のよすがとする場所だ。そう思ったら、唾は吐けまい。

マラソンのような過酷なスポーツなら、走りながら道路に唾を吐くのも仕方がないが、野球の試合はそれ程苛酷ではない。野球よりずっと肉体的にはハードなテニスの試合で、コートに唾を吐いたら、それこそ大変な観感（ひんかん）を買うだろう。

野球の場合、マナーがそれ程うるさく言われないから、平気で唾を吐くのだろうが、そうなると要は、選手個人の品性と誇りの問題となる。

野球という素晴らしいスポーツを輸入した先人の功績には文句なしに脱帽だが、悪い習慣までまねすることはない。野球はテレビで、子供が一番大勢見ているスポーツなのだ。

唾といえば、今年の関東アマチュアゴルフ選手権でも、最終日の優勝争いに絡んだ最年少の高校生選手が、ティーグラウンドに唾を吐いて役員から厳重な注意を受けた。嘆かましい話だ。

そもそも、行儀という言葉が死語にして、何でもマナーに置き換える風潮がよくないと

思う。

いわく、日常のマナー、テーブルマナー、果ては、交通のマナーとか、夫婦間のマナーなどとも言っている。本来、行儀作法で片付く言葉だ。

マナーという英語が、本当はどういう語感を持つものか私には分からないが、行儀という日本語には、マナー以前の、日頃の何気ない人間の立ち居振る舞いを、美しくあるべく規制しようという意味があると私は思う。

日本では、逆に、マナーを行儀と言い換えただ方がいい。

サンチエス、尾崎、落合、それに、若い娘たち……お行儀が悪いよ、と。

（了）
（作 家）



FORUM

浄土の広場

「浄土の広場」では読者の自由な参加をお待ちしています。

詩、エッセイ、短歌、俳句、川柳、書評、映画評、

TVウォッチング、紀行文その他創作等。

あるいは会員各寺院での催しの告知、報告など。

どうぞ編集部にお寄せ下さい。

道徳を守れぬ 社会人

寿護クラブ
後藤正三

広辞林によれば「道徳とは人間のふみ行うべき、正しい道またはそれにながう行為」とある。

毎月第一日曜日は町内清掃日です。町内や都道に面した植え込みの清掃を行っています。が、これから書きますことは道徳を感じた1コマを入れて、清掃のでき事を記させて頂きます。

昨夜来の雨も上り清々しい朝でした。季節も暑さに向かう時期でボイ捨ても数あり雨上がりで、紙など植木に絡みつき空缶、吸殻も路面に散らかり何時もより苦勞しました。植え込みの中の空缶に手を伸ばしているとき五、六年生の女の子が通り過ぎながら（おじさんありがとう）と声をかけて行き過ぎました。思い掛けない挨拶に戸惑った私は何も返事をすることもなく、後ろ姿を見送った。カバンを提げて居たので日曜日でありどこかへ勉強に行くのでしょうか。

私はその一声で腰の痛みも和らぎ道徳が今の子供に欠けて居ると聞きますが、その子の家庭のしつけか、ありがとうの一声が優しく心に残りました。

非常識に道路に投げ捨てて行く大人の不道徳を痛感し、良い子に礼を言われ老いた身に励ましを与えてくれて有り難う、今日は腰は痛くとも心地よい清掃日でした。

俳句の楽しみ 大畑等

「甘納豆のなんとか、という俳句教科書に
ててるよ」と夕食を共にしている娘が言った
とき、坪内稔典の「あの連作だな」とピンと
来た。そしてあの句が教科書にとりあげられ
ていることを嬉しく思ったのである。教科書
では数句だけであるが、ここで、あの句「甘
納豆 十二句」すべて紹介してみよう。

一月の甘納豆はやせてます

二月には甘納豆と坂下る

三月の甘納豆のうふふふふ

四月には死んだまねする甘納豆

五月来て困ってしまう甘納豆

甘納豆六月ごろにはごろついて

腰を病む甘納豆も七月も

八月の嘘と親しむ甘納豆

ほろほろと生きる九月の甘納豆

十月の男女はみんな甘納豆

河馬を呼ぶ十一月の甘納豆

十二月どうするどうする甘納豆

(坪内稔典句集 ふらんす堂)

この甘納豆の句が、子規や波郷の

いくたびも雪の深さを尋ねけり
噴水のしぶけり四方に風の街

と一緒に収められているのだが、娘に感想を聞くなぞと、よけいなことはしなかった。父親が俳句をやっているのは重々知っているわけで、「甘納豆」の句がでているよ、と知らせようとするとところに、娘の「驚き」がすでに表現されているのだから。いや「驚き」と思いうのは、こちらの思い過ぎで、娘は自然にこの句を受け入れているのかもしれないのだ。だから娘の「俳句に対する感想」に手を加えなかったのは、私にとって奇跡的なことで、振り返って「ああ良かった」と思っている。

さてこの「甘納豆 十二句」であるが、まずは楽しい。それが一番である。そして作者が唱える、俳句の「口誦性」と「片言性」を、存分に折込ませてつくっているのが、これら甘納豆の句なのである。俳句は小説や近代詩とはちがって、覚え易く、口ずさみ易いというのが、「口誦性」。人間全体を捉えようとするのではなく、ほんのささやかな一面を詠うというのが、「片言性」。この二面をもって坪内逍遙は俳句を「未開の世の詩歌」と言い、桑原

武夫は「第二芸術」と言ったが、私が思うには、この二人はより「近代人」になろうと焦ったわけで、そんなに俳句を泛しめることはなかったはず。この二面をバネに俳句は、結構いろんな世界を描くことができる。

甘納豆の句に戻って、まずは季語は一月から十二月、それのみである。歳時記など不要、そのときどきの句の見たもので充分ですよ、ということ。それにこの十二句、どのように受け取ることも出来る。新入生でも新社会人の一年、としても良さそうだし、また人生七十を経なんとしてる人の感慨にも添うのではない。人は「哲学」や「思想」で生きているのではなく、その多くの時間を、食う、働く、遊ぶ、眠る、そして小さいが豊かである断片的な感情で生きている。そこは多義的な世界であって、誤解も許容されることによつて、より豊かなものとなるのだ。俳句という短詩型（それは片言性に通じる）に厳密な言葉の伝達を期待しても、ちよつと難がある。むしろ様々な受けとり方にゆだねるほうが良い。言葉を所有するのではなく、言葉を解放するのだ。そうすると今まで見えなかった自分が、他人に見えされることもある。ここで、

言葉を媒介にして、自他共につくりあげる共有の場が現れる。俳句は「座の文学」といわれるが、べつに同心のものだけで「座」を形成すると考えなくてよい。言葉の多義性にゆだねるなら、誌上でも、遠く離れていても「座」は形成される。今日のメディアはそれを可能にするし、これはこれで今日的な「座」と私は考えたい。

さて、同じ作者に

朝潮がどつと負けます曼珠沙華

がある。ついでに作者本人の弁を引いてみる。

朝潮の句は友人のHさん一家に人気があり、大相撲のテレビ中継で朝潮が登場すると、家族がそろってこの句を唱えるという。曼珠沙華の音から饅頭がひしゃげたようすを読み取り、そんなふうに朝潮が負けることを期待するらしい。Hさん一家を生き生きとした気分させるとはいえ、朝潮関にはどうも申し訳ない。もつとも、朝潮はなによりも負けっぶりのよい力士だが。

(同著)

これもHさん一家とつくる「座」なのだ。とはいえ、実際に集まってくる「座」はその一回性の故に、メンバーの表情さえも再現されるほど、生き生きと心に残る。何年前、三家族でのキャンプのこと。私の家族にも内緒で短冊をしのばせて、突然句会を開いた。

私以外の誰もが初体験で、親は悲鳴すら上げる。五、七、五と指を折りながらも全員がつくってしまう。これは、やはり短詩型で固有のリズムを持つ俳句の力の故、口誦性と片言性の故であって、そのときの俳句が臨場感を伴って甦ってくる。

むっちゃんはキャンプファイヤーうれしいな
小学生低学年の子の俳句で、妹を思う心情が
キャンプの「場」と結びついて、その感情の
具体的な現れに、親一同に感動した。いま高
校生となったその子は、もはやそのような俳
句を作ることはできないであろうが、場の一
回性の故に、一生、輝いて心に残るであろう。

——この項続く——

読者の皆さん こんにちは！



中西泰代

ことし三月号の本欄に「痴呆症を別名に」という私の提案を載せていただきましたが、私は何と相変わらずしつこく、その事を考えています。

痴呆症はその原因から「脳血管性」と「アルツハイマー」の二種類に区別できますが、「アルツハイマー性痴呆症」については最近の新聞・テレビは「アルツハイマー病」と「痴呆」を省略し短く表現しているようで、これはこれで良いと思います。「脳血管性」については「脳血管病」とは言わないようです。私は「退行症」とか「帰幼症」という用語を考えています。どうでしょうか。日本に昔からある用語としては「二度わらべ」が美しいことばだと思っています。医療現場などで使うにはどうかnao思っています。

この話はこれでおしまいますが、「二度わらべ」ということばを私はジャーナリストの中島誠さんの著書「二度わらべの母と生きて」で知りました。この本は老人問題をテーマにしていますが、その中にお寺について大変好意的でありがたい文章があったので御紹介します。

日本の近代は、長い間、神社や寺を粗末にし過ぎた。この二つの「心のサロン」は、たいがい村や町に一つか二つずつあって、お祭りや墓場の世話だけをしてきたわけではない。ヨーロッパの町々にある教会の役割、すなわち、家族の結びつき、日曜毎の集会、教育と悩みごと相談、村や町の出来事の解決等、よろず身の上相談、カウンセラー、メディア・ーションセンター、そして今日の地域コミュニティセンターの役割を多角的に果たしてきた。日本において、教会の役目を実行してきたのは、神社と寺、特に寺であり、その数は、今日の公民館や図書館や劇場の数を合計したのより多かった。もちろん、お寺にも功と罪がある。しかし、教会や寺ほど、千数百年にわたって、地域社会に多角的な貢献をしてきた施設は他にない。そして、これにそっくりかわれるようなものを、近代社会は、ついに作り出せなかった。また、今日の、地域社会の諸施設も、人間の心身を総合的に扱える機能において、寺の働きを上まわっていないのである。

私は、教会や神社や寺を新たにつくれともお祭りを復活させろ、とも言っているのではない。これらのものがそれぞれに、千数百年にわたって果たしてきた働きを再検討すべきだと言っているのである。

さらに、教会の牧師や寺の僧侶は、その役職の名の示すように、自分の施設を所有しているのでも、また、そこに閉じ込もって、お客を待っていたわけでもない。彼らは健脚でなければならず、村や町の人々のことをよく知っていなければならなかった。宗教は、決してボランティアではないが、ボランティア的活動によって、リーダーも信者も集まる大衆も、自らの心身を助けたのである。現代の地方公務員や企業文化の演出者たちも、この歴史的なシステムを、もう少し見直すことで、高齢化社会を考えてもよいのではないかと思う。

どうですか？ 私はこの様な最大級の賛辞や期待にてあうと大いに気をよくしてしまうのですが、皆さんはいかがですか？

誌上俳壇

草いきれ今妖怪の陣に入る
束の間のアリアとならむ蟬時雨

井口しおり（東京）

施餓鬼会の香煙おくる車椅子
お隣の葬に風鈴下しけり

吉田ゆきゑ（東京）

葺き終えし赤銅の堂盆を待つ
夏草や廃村墓を残すのみ

佐藤雅子（山形）

青林檎ひらりと受けて野球帽
盆支度祖母の鏡が此所により

近藤あずさ（東京）

ペダル踏む一本道や青田風
百椀に盛るバイキング敗戦日

原色のポロシャツ好む花でいご
夏帽子鷗白波見てゐたり

内堀綾子（東京）

児玉仁良（埼玉）

吉野法衣店

各大本山御用達浄土宗袈裟法衣専門



〒160 東京都新宿区南元町17
TEL 03-3335-2168
振替 東京2176372

事務局便り

事務局便り

●平成七年度 総会のご報告

去る七月二三日、法然上人鑽仰会の平成七年度定例総会が、東京プリンスホテルにて行われました。諏訪貞松院住職・山田和雄議長の進行により次の議案が承認されましたのでご報告申し上げます。

- ① 平成七年度事業報告及び収支決算報告
- ② 監査報告
- ③ 平成八年度事業計画及び会計予算
- ④ 役員人事について

なお、役員人事につきましては、牧田諦亮会長が任期満了に伴い退任されましたため、真野龍海副会長を次期会長にご推戴中です。

総会終了後、「法然上人鑽仰会活動の今後を探る」のテーマでパネルディスカッションが行われ貴重なご意見が提示されましたので、今後の誌面及び活動に反映させていきたいと思います。

会費の振込はこちらへ
振替番号 00180-8-82187

●読者アンケートのお願い

編集部では「浄土」のより一層の充実を図るために、皆様にアンケートをお願いしております。

1 九月号でもっともよかった記事。

2 今後、掲載してもらいたい記事、希望する内容。

3 法然上人鑽仰会の活動として望むこと。

4 その他。ご意見、ご感想など。官製はがきまたはFAXで事務局までお送り下さい。もれなく記念品を差し上げます。どうぞご協力お願いします。
(住所、氏名、電話番号をお忘れなく)

●お詫びと訂正

八月号「御法語に聴く」二六ページ、「慈悲と輪廻転生をはさんで表と裏なのだ。この娑婆だからこそ、生き物を食するという行為と、三度の食事をおいしく、感謝をもっていたきたい。」は、「生き物を食するという行為と慈悲とは、輪廻転生をはさんで表と裏なのだ。この娑婆だからこそ、三度の食事をおいしく、感謝をもっていたきたい」の誤りでした。訂正し、お詫び致します。

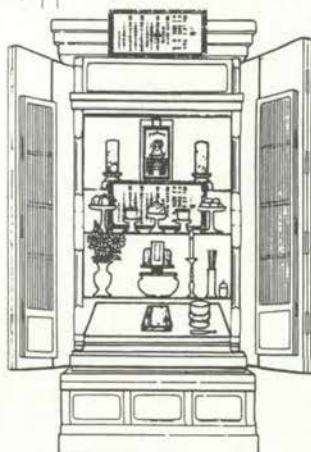
好評
発売中!!

お寺から檀信徒へ

宗旨布教額

家の仏壇の上に掛けるものです。
菩提寺とその宗旨がいつも
ひと目で明確になります。

数をまとめて御注文下さい。



定価：大（32.0×18.3cm）721円／小（27.3×14.2cm）412円

注文・問合せは
法然上人鑽仰会

〒105 東京都港区芝公園4-7-4 明照会館内
電話：03-3578-6947／FAX：03-3578-7036



霊前に新米まだかと遠き声

岱潤

今年の夏は全国で0—157なる病原菌が猛威を振るい、大勢の死者までだした。それに感染した患者さんの数は大阪の堺市などでは六千名を越え、市自体がパニックになってしまった。食べ物からの感染であることがわかるだけで、その食品すら限定されず、感染ルートもわからない状態が続き、その感染者が大部分子供であるということから、日本中の親たち、子供たちは神経をすり減らした夏になってしまった。この目に見えない病原菌という悪魔は、なぜこの夏、こんなにも猛威を振るったのか不明だ。

そんな中、大阪の女の子の悲鳴が新聞に載っていた。こんな痛い思いをするなんてもういや、ご飯が怖い！」

思わず絶句した言葉だった。以前世界中で一番おいしい食べ物は何ですかの質問に、ある男の子が「おむすび」と答え、嬉しくなった思いを交錯して思い出した。日本人はご飯が大好きで、一年中食べ続けても飽きない人が多い。そのご飯を食べることが怖いと言わせてしまう今回の病原菌騒動。その恐ろしさを改めて痛感した。

現代は食品公害なる言葉もあるように、さまざまな加工品、添加物だらけの食品が店頭に並び、便利と安さを優先すれば、健康は二の次のように思われるほど、吟味して買わなければならない時代になっている。せめて食べるといふことぐらいたいに楽しむことができる世の中になつてもいいものだ。

(長)

編集チーフ
編集スタッフ

長谷川岱潤

斎藤晃道

村田洋一

太田正孝

石上俊教

石上哲郎

オフィス頼師代表佐山哲郎

編集顧問

大室了皓

浄土

六十二巻九月号 頒価六百円
年間費六千円

昭和十年五月二十日第三種郵便物認可
印刷——平成八年八月二十五日
発行——平成八年九月一日

発行人兼編集人——宮林昭彦
印刷所——株式会社 平文社
写真植字——株式会社 シーティーイー

〒一〇五 東京都港区芝公園四一七十四明照会館内

発行所 法然上人鑽仰会
電話〇三三三三七八六九四七
FAX〇三三三三七八七〇三六



使えるよなあ、こいつ。



こんどのパルサーは、 たのしい新実用主義。

○ いろんな機能性に、目こぼしがあるのが新しいのだ。それが、
○ こんどのパルサーのたのしい新実用主義。しっかり遊ぶ、
○ しっかり仕事する、しっかり生活する。Mr.しっかりのこれからを、
○ 気持ちよくサポートします。

これ安心

■運転席SRSエアバッグ
システム全車標準装備。



走る走る

●乗車 マルチリンクヒールサスペンション(リヤ)
●3列しい座席費 ¥1500X1(5速フロアシフト)
13.3km/h ¥1500X2(5速フロアシフト) ¥1500X3(5速
フロアシフト) ¥1500X4(5速フロアシフト)
運転者専用座席

らくちん

●上置きのある、しなやかな乗りこころ
●ゆったり室内スペース

ツイてる

●新型エアコン
●トランスミッション等、収納性しゅうかん。

パルサー4ドアセダン
1500XJ-1(5速フロアシフト)

131.3万円

パルサー4ドアセダン
1500X1(5速フロアシフト)

148.4万円

上記価格はいずれも全国メーカー希望小売価格、税別、北海道・沖縄

Mr. しっかり 新パルサー誕生

[Mr.しっかり] 日常フダン活用。①新パルサーの別名。②新パルサーに乗る人の愛称。

③～状態……新パルサーでたのしい人生を送っている様子。

●PHOTO：パルサー4ドアセダン1500X1、ボディカラーはブルー・インジェニオ・パール(M18401)。スポーツパッケージは
メーカーオプション。●希望小売価格は消費税・標準工具付。寒冷地仕様は1.7万円高となります。●保険料、
税金(消費税含む)、登録等に付く諸費用は別途申し受けます。●希望小売価格は参考価格です。価格は販売会社が
独自に決めていますのでそれぞれの販売会社にお問い合わせください。●日産自動車 お客様相談室 全国共通
フリーダイヤル 0120-315-232 ●お名前は、お近くのスカイライン・ブルーバード、日産セレナ各販売会社へ。



みんな、自分の星を追いかけている。

駆けぬける 喉ごし。

息もつかせぬ爽快感。おいしいビールは、
喉をまっすぐに走ります。胸に一本の滝をつくります。
やすらぎと勇気をあたえてくれるもの。あなたの金星、黒ラベル。

サッポロ〈生〉黒ラベル

ビールは、20歳になってから。あきかんはりサイクルへ



サッポロビール株式会社